

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 清水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

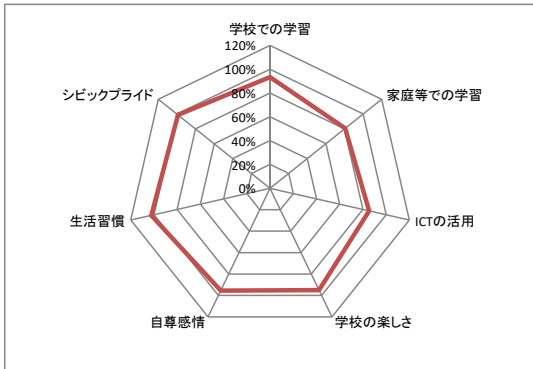
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比べて全体的に上回っている。「知識及び技能」に関しては、全国平均を大きく上回っており、「思考力、判断力、表現力等」に関しては、全国平均より少し高くなっている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。	
	努力が必要な問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比べて全体的に上回っている。「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」に関して、どちらも全国平均より大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	数量の関係を、□を用いた式に表す。	
	努力が必要な問題	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」との問いに対して全国平均より上回った。
・「家庭等での学習」が全国平均を下回った。学力向上のために家庭学習の充実も不可欠であることから、今後は自主学習を行うなどの取組の推進をさらに進めていく必要がある。
・「ICTの活用」が全国平均を下回った。令和6年度はICT推進校となり、本格的にICT推進の取組を行ったことで、年度後半にはICT活用の推進を図った。今後も引き続き、学校の教育活動や家庭学習でのICTの積極的な活用を進めていく。
・「自分にはよいところがある」「先生はあなたのよいところを認めてくれていますか」など自尊感情に関する問いに対して全国平均より下回った。今後、自己有用感を高めるための取組が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・各学級において、学習規律を定着させ、落ち着いた学級風土の中で学習が進められるようにする。 ・国語科も算数科も全国平均を上回っているが、今後はICTを活用しながらの「個別最適な学び」「協働的な学び」が充実した授業づくりを進めていきたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・各学年の実態に応じた内容や分量の家庭学習課題を検討していくと共に、自分の興味・関心や課題に応じた自主学習の時間や取り組み方を指導する。また、他の児童の参考となるように、児童の自主学習ノートを提示し、どのような自主学習・家庭学習を行えばよいか学校全体に紹介する。 ・縦割活動や委員会活動、日頃の学習など児童の活躍した姿を学校通信やホームページなど家庭への連絡を通し、家庭でも児童を褒め、認められるようにしていく。 ・「シビックプライド」の更なる醸成を図るために、出前授業やゲストティーチャーを活用して地域や社会との繋がりを深めていく。
